

裾野麗峰山の会山行報告書

文・井上弘二郎 写真・後藤隆徳

山行番 NO. 1564
日時 2013. 9. 23 (月、祝日) 晴
山域 南八ヶ岳・阿弥陀岳中央稜 (2805m)
標高差 上り=舟山十字路1619m~阿弥陀岳2805m=1186m
下り= 同上
参加者 後藤、浜道 (先発)、小松、井上 (後発) = 4名

4:30 長泉町出発 (小松さん、井上)。後藤さんと浜道さんは前夜、小淵沢「大山工房」泊。7:00 小淵沢道の駅にて合流し、小松さんの車を「延命の湯」駐車場に置き、後藤さんの車1台で行く。

舟山十字路に駐車、標高1619m、6:55 スタート。舟山十字路には車が10台弱停まっていたらうか。林道のゲートを越えて、しばし林道を歩く。そこそこ傾斜があり、意外とこたえる。道端にはススキの穂が揺れ、所々にトリカブトが青紫の花を咲かせている。

林道を数名のオジさんが鈴をチンチン鳴らし賑やかに降りて来た。見れば手のコンビニ袋には何やらキノコが入っていた。声を掛け袋を覗くと、見覚えのある「ジゴボウ」(学名=花猪口・はないぐち)が入っていた。これは超美味しいキノコ。我々も帰りが楽しみだ。

7:21 広河原橋。橋の長さは約5m。7:33 二又。7:34 取り付き。沢沿いを離れこれより森に入る。

8:03 中央稜の尾根に入るタイミングを逃したか、少し行きすぎたようだ。右手に見える急な坂を登ることになった。14分後、標高2140mの尾根に上がった。息も上がった。およそ15分で300m上がった。登りの効率がよすぎ。あーしんどい。それでも、私はここからは比較的楽チンであると勘違いをしており楽観視していた。

頂上でわかったことだが、エアリアマップの5万図の御小屋尾根を中央稜と勘違いし、等高線があまり詰まっていないのでルンルンの尾根歩きと思っていたのだった。はたして、その思い違いは頂上まで続く。8:20 一服。9:20、標高2500m。頂上まではまだ300mもある。どうなっているんだ。久しぶりの本格登山で、私の脚はそんなになまっているのか、と自問自答して歩く。

一向に斜面は緩くならない。おかしい。しかし、最後尾の私は、なんとか前の3人についていかねばならない。脚が悲鳴を上げている。荷は軽い、斜面が急なため、気を抜いてバランスを崩すと、あらぬ方向に行ってしまうそうになるので、足元に集中した。雲海を越えると周りの景色は素晴らしく、振り返ったり見回したりしたいが、先行する仲間を追いつくためには足元に集中しなくてはならない。

ある時、がっつがっつと登りナイフリッジな尾根に上がった時、その向こうに凄い景色が広がった。権現岳が目の前に現れ、真下は広河原沢まで切れ落ち

ていて、凄い高度感のある情景だった。さらに遠くには、北岳、甲斐駒が雲海の上に頭を出している。やがて岩場が現われ、梯子やロープを使う。岩場の上に立つと、



大山工房さん



厳しい上り



権現岳方面

これまた足元は沢まで見えるため、むちゃくちゃ高いところにいることを認識させられ、ぞっとした。戸隠山の蟻の戸渡り以来か、びびってしまった。とはいえ気を抜いて落っこちるわけにいかず、真剣さをなくさないように慎重に梯子を通過する。そうして、阿弥陀岳頂上到着 10:14。時刻は早いですが、ビールを頂き昼ごはんとする。頂上はまあまあ人がいる。10人くらいか。時間も早いので、食事をしている人はいなかったようだ。

10:45 下山開始。下りは御小屋尾根を使う。ガレた道で歩きにくい。時折登り返す。

森林地帯に入るとキノコが目につく。食べられそうなキノコを見つけては、浜道さんが採取しビニール袋に入れる。結局ずーっとキノコを獲り続け、ビニール袋はほぼいっぱいになった。

12:20 三角点 2136m。13:47 舟山十字路駐車場到着。帰路道中にあったキノコの販売店に立ち寄り、採ったキノコの選定をしていただいた。「ジゴボウ」は正解。カサの表が赤っぽい茶色で裏は黄色が正解。タマゴダケと思って撮ったのは猛毒テングダケだった。

タマゴダケは軸の上の方が黄色いのだ。取ってきたのは白。あぶない、あぶない。小淵沢道の駅「延命の湯」(¥600)に入ると、足の痛みはすっきりとなくなった。長泉にかえると、今日は月曜日。当然、焼き鳥「三楽」にて反省会となりました。



中央稜上部



阿弥陀岳
摩利支天峰

帰宅後、2万5千図をみると、等高線の密度は高く、水平距離 250m (地図上 1cm) で標高 150m だった。平均的に傾斜は約 30 度。現地では、樹木の生え方を見たとき 45 度に見えた。登山を始めたころは事前に 2 万 5 千図をよく読んで、現地で地形を確認していたが、最近ではサボり、地図を読みながら登ることもしなかった。数年前までは、等高線の混み具合でしんどさが予想できたものだが、勘は鈍っている。今回は初心に

戻る良い機会だったと思う。これも安全登山には必要な事で、予想外に疲れることは危険だし、食糧、水分の準備にも差が出る。今回は涼しい日だったので良かったが、これが暑い日ならば確実に水分が不足し、かなり苦しい思いをしたと思う。反省しきりです。来年は南陵とのこと。

翌日、嫁さんに頼んでジゴボウの味噌汁を作ってもらい食した。初めての味で、最初は慣れなかったが、2口目から汁に溶けた独特のうまみを感じられた。世の中にはまだ知らないおいしいものがあります。



赤岳



四等三角点



阿弥陀岳頂上





御小屋尾根の下降



シラタマの実



キノコ屋さんのキノコ



快晴の頂上

その他の記述（後藤）

1. 中央稜は、2007年9月23日以来6年ぶり。頂上までの時間は、わずか「6分速いだけ」だった。6年経過で遅かったわけではないからイイでしょう。（笑）

2. 中央稜は他にオジさんと若い女性の二人。当初、道間違いと思ったが昼食中、それ程遅れず到着。感心しました。
3. やっぱり前泊は楽だった。四捨五入67歳で3時起床5時発、2時間運転後、登山は若い人でもやっぱり厳しい。経費は掛かるが、今後このスタイルは増えるかも。
4. 中央稜・御小屋尾根に「境界改・広河原山四区」の立札が続き、何かと話題に。
5. 花は枯れた当薬竜胆・鳥兜・松虫草くらい。ほか、裏縞躑躅の紅葉が見事。
6. 御小屋尾根では「白玉の木の実」が、たわわに実っていた。
7. 御小屋尾根上部はガラガラで最悪。フィックス・ロープが有効で有難い。
8. 「ジゴボウ」は、翌朝味噌汁で頂いた。サイコーの味でした。
9. 帰着2日後、若い仲間が足の筋肉痛で大変だったような。私は今回全く無かった。この違いはどこからでしょうか??!! (笑)

以上

タマゴダケは
茎が黄色

